

生活や遊びの中で子ども達は、毎日たくさんの言葉に触れながら過ごしています。子ども達の様子を見てみると、「いっしょにあそぼ」「だいじょうぶ?」といった心があたたかくなるふわふわ言葉もあれば「きれい」「あっち行って」といった言われると心がチクっとするちくちく言葉も聞こえてきます。

ふわふわ言葉が増えると・・・

友達とのトラブルが減る

自分の気持ちを安心して伝えられる

人との関わりが楽しいと感じられる



0・1・2歳

この時期の子ども達はまだ言葉が十分ではなく、泣く・怒る・手が出るなどの行動で気持ちを表します。

ちくちく言葉に聞こえる言葉も「思いを伝えたい」という気持ちの表れです。

大人が「いやだったね」「貸してほしかったんだよね」と気持ちを代弁し、優しい言葉をかけることで安心して言葉を覚えていきます。

〇・・・おすすめ絵本・・・〇

「だいすき ぎゅっぎゅっ」 「いいこ いいこ」



3・4・5歳

友達との関わりが深まり、言葉でやりとりする場面が増えてきます。

ふわふわ言葉も増える一方で、つついちくちく言葉が出てしまうこともあります。

「どういえば伝わったかな?」「その言葉を言われたら、どんな気持ちかな?」と一緒に考えることで、相手の気持ちを思いやる言葉が育っていきます。

〇・・・おすすめ絵本・・・〇

「ふわふわとちくちく」「おこだでませんように」



言葉の育ちは一人ひとり違います。大切なのは、失敗も含めて経験の中で学んでいくことです。

また、私たち大人が使う「ありがとう」「嬉しいね」「助かったよ」という言葉は、子どもにとって身近なふわふわ言葉です。

園と家庭で同じ思いを持ちながら、子ども達の言葉の育ちを見守っていききたいですね。